

平成3年度研究功労賞推薦書

受賞対象者 島菌 安雄 先生

島菌安雄先生は、わが国における臨床脳波学およびそれに基礎を置く新しいてんかん学の黎明期であった昭和18年に東京帝国大学を御卒業になり、以後半世紀にわたる精神神経学者としての学究生活の間、一貫しててんかん学と臨床脳波学の進歩と発展に貢献してこられました。

先生はご卒業後東京大学精神医学教室で脳研究所の脳波室を主宰され、てんかん欠神発作など意識障害時の脳波を中心に研究を進められるかたわら、国産インク書き脳波計の製作にも大きな貢献をされました。

その後、金沢大学神経精神医学教室、東京医科歯科大学神経精神医学教室を主宰され、この間脳波学、てんかん学の基礎から臨床にわたる広範囲の研究を指導されました。

先生のがわ国のてんかん学に対する大きな御貢献として特筆すべきものに、わが国てんかん学の研究体制確立への御寄与があります。先生は終戦後の困難な時代であった昭和20年代に、清水健太郎教授、内村祐之教授を助けててんかん研究班の組織づくりと運営に努力されましたが、これが現在の日本てんかん学会の母体になったことはよく知られています。その後日本てんかん研究会、日本てんかん学会の設立とともに理事に就任され、昭和56年10月には日本てんかん学会理事長に就任、以後平成元年10月まで9年間にわたり学会の安定した活動体制を確立し、学会発展の基礎を作られました。

また昭和55年以来、厚生省の精神・神経疾患研究委託費(以前は神経疾患研究委託費)による研究班の一つとして、てんかんを対象とする研究班を組織されましたが、この研究班は先生が国立武蔵療養所長、国立精神・神経センター総長を歴任されるとともに、一層発展して、今日も継続されており、わが国におけるてんかん研究の有力な組織になっています。

財団法人てんかん治療研究振興財団の設立についても、設立以前から計画・立案に関与され、設立後も事務局を助け財団の健全な発展のために寄与してこられました。

先生は現在財団法人神経研究所理事長、国立精神・神経センター名誉総長として活躍しておられますが、日本てんかん学会、日本脳波・筋電図学会から名誉会員の称号が贈られております。これらは先生のがわ国のてんかん学に対する深い御造詣と永年にわたる大きな御貢献によるものであります。